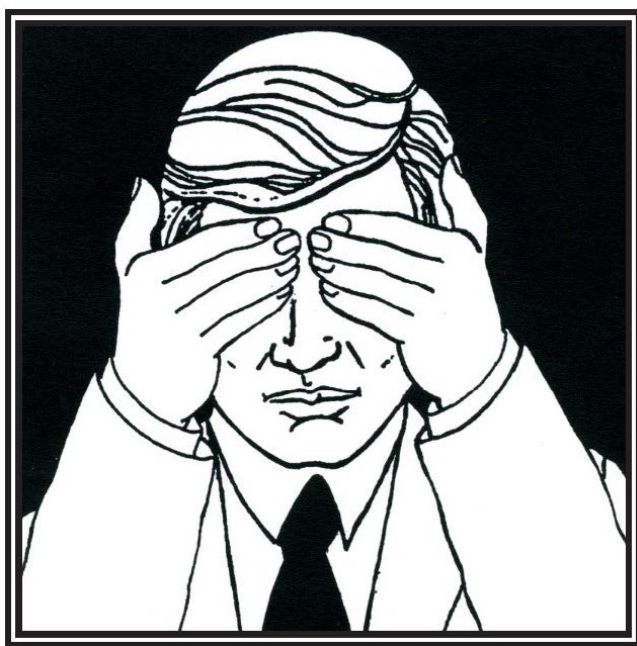


Watch Your Eyes!

毒されるもの
を見てはなりません



B.R.ヒックス著

This book is a direct translation of the English version, which is copyrighted in the USA in the name of Christ Gospel Churches International Incorporated, PO Box 786, Jeffersonville, Indiana, 47131-0786 and registered with the United States Copyright Office in Washington, D.C. Under the world treaty, all rights are reserved. No part of this publication may be produced, stored in a retrieval system, or transmitted in any graphic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise without the prior written permission of the author and publisher.

本書は英語版からの直接の翻訳であり、原書のアメリカ合衆国における著作権は Christ Gospel Churches International Incorporated, PO BOX786, Jeffersonville, Indiana, 47131-0786 によって所有されています。またその権利は、ワシントン D.C. にある The United States Copyright Office に登記済みとなっております。国際条約により、すべての権利は確保されています。この出版物の如何なる部分といえども、著者並びに出版社から予め書面による許可を得ない限り、情報検索システム内での提示、保存、また、如何なる図形的、機械的、写真による複製、記録がなされることなども禁じます。

出版元(Publisher) : Christ Gospel Churches International, Inc.
P. O Box 786
Jeffersonville, Indiana 47131-0786

© Christ Gospel Churches International, Inc., 1978, **Watch Your Eyes!**

版權所有
アメリカ合衆国及び日本にて印刷

Japanese Edition, 毒されるものを見てはなりません© Christ Gospel Churches International, Inc., 2013

詳しい情報や聖書に関する書籍等は、下記のホームページをご覧ください。
米国のクライスト・ゴスペル・チャーチ
www.christgospel.org
日本のクライスト・ゴスペル・チャーチ
www.christgospel.sakura.ne.jp



Christ Gospel Press
P. O. Box 786
Jeffersonville, Indiana 47131-0786

毒されるものを見てはなりません

視覚は、人類に対する神の最大の賜物の内の一つです。なぜなら、神は、この人間の本質としての機能の中に創造力を置かれたからです。この創造力は、私たちを自分の見るものに変えることのできるものです。

私たちが見るものに自分になることを確証する真理の原則は、聖書の最初の書である創世記で、明らかにされています。

さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ。』と仰せになりました。」そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。（創世記 3: 1-7）

人間と呼ばれる神の新しい被造物は、生まれつきの視覚を備えています。この事は、アダム男性とアダム女性がエデンの園の様々な木々を区別できたことから明らかです。しかしこの時、人類は心のうちの理解の目は開かれてはいませんでした。神が園に既に置かれたすべての霊の真理を悟り、それによって歩むこととのできる方法はありませんでした。

アダム男性とアダム女性が善悪を区別する能力が無いことをご存知だったので、神は、彼らが善悪の知識の木から取って食べることを禁じられました。この二人が心をへりくだらせ、神のみことばに従い、神が彼らのために備えてくださった木々から自由に食べていたならば、神は食物を祝福してくださり、彼らは神の完全なみこころに従って、知識の木から食べることができるような内なる霊の人の身たけに達していたはずです。

私たちにとって不幸なことは、私たちの最初の両親であるアダム男性とアダム女性が誤った木の実を賞味し、その結果、死が即座にもたらされたことです。

蛇の姿をした墮落したルシファーは、巧みに女のアダム女性を誘惑して禁じられた木を見つめさせ、彼女がその木の実を食べるようにさせました。アダム女性は外側の視覚しか持っていなかったもので、その木による害を見ることはできませんでした。外側から見れば、その木の実を食べるのに好ましく見えました。外側からは、その実には危険や死による脅かしは見えなかったのです。しかし、それはアダム女性が内側の視覚を持っていなかったからです。内側の視覚は、木の外見を通り越して、その内側の性質を理解するために必要なものでした。アダム女性が見つめたすべてのものを理解することはできませんでした。彼女が、彼女の視覚の中の「見たもののように自分になる」という創造力が働かないことはありませんでした。そのため、彼女が死の木を見つめてその実を食べたとき、彼女は自分の見つめたものと同じもの一

死で満たされた被造物ーに自らがなってしまいました。

イスラエルの十二部族の族長であるヤコブは、私たちが見つめたものと同じものようになるという原理の啓示を与えられていました。ですから、彼はその原理を日常生活で働かせたのです。

ヤコブは、ポプラや、アーモンドや、すずかけの木の若枝を取り、その白い筋の皮をはいで、その若枝の白いところをむき出しにし、その皮をはいだ枝を、群れが水を飲みに来る水ため、すなわち水ぶねの中に、群れに差し向かいに置いた。それで群れは水を飲みに来るときに、さかりがついた。こうして、群れは枝の前でさかりがついて、しま毛のもの、ぶち毛のもの、まだら毛のものを産んだ。（創世記 30: 37-39）

しま毛とぶち毛のものは、ヤコブがラバンの家畜の群れの番をする報酬として群れから受け取る、とラバンと決めたとき、これらのものは群れの中で一番弱いものたちでした。動物たちが水を飲みに来て、目の前のぶちの枝を見つめた後、動物たちは受胎し、ぶちの子どもを産みました。

これが奇跡であることは、親の動物たちが、ぶち毛でなかったからです。自然の法則によれば、親たちはぶち毛のでない子を産むべきでしたが、そうではなく、親の視覚の強い繁殖力のおかげで、動物たちは、自分たちの見つめたものに従って、ぶち毛の子を産んだのでした。

新約聖書は、私たちが見つめるもののように自分になると確言しています。

私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きに

よるのです。（第Ⅱコリント 3:18）

クリスチャンが顔を覆わず、よく目を開いて、神のみことば（聖書）に記された**主**を見つめると、素晴らしい**主**であり、救い主であるお方の栄光にあふれたみ姿に似た者になります。私たちが、神のみことばの中の、栄光に満ちた光と自由にする真理を見つめるとき、私たちは、栄光から栄光へ、栄光に満ちたみ恵みの一つの段階からもう一つの段階へ、栄光とみ恵みの極みに達るまで、永遠に変えられ続けて行くのです。私たちが、主のみことばの栄光と麗しさの中にある**主**を見つめるときだけ、私たちは**主**に似た者になることができます。

これらの短い聖句から、目が途方もなく強力な能力を持っていることが明らです。ですから、クリスチャンが、彼らの目をどのように用い、何を見つめるかについて真面目に考えることが、クリスチャンにとって、生命にかかわるほど大切なことがわかります。

目が見つめるものについて人が語るとき、すぐ心に浮かぶのは、テレビです。「テレビジョン」という名前そのものが、視覚に結び付いています。視覚は私たちの感覚のうちで最も強力な経路です。

テレビジョンと言う名は、ギリシャ語の、**遠く**、を表す**テレ**と、ラテン語の、**見る**、を表す**ビデレ**に由来するものです。ですからテレビジョンの意味は、**遠くを見る**ものです。時には、テレビジョンはビデオと関連づけられることがあります。ビデオはラテン語で、**私は見る**と言う意味です。テレビは遠くを見る目であり、それを見る者の知力と意志に影響する強力な力があります。ですからテレビを見るという事からは、誰にとっても、軽々しく受け取ってよいものでは、決してないのです。

イエス・キリストは、私たちを罪と死から救うために、死んでくださいました。罪と死は、私たちの祖先が、禁じられた木を見つめてその実を食べたことから、この世にもたらされたものです。ですから私

たちは、救われた被造物として、私たちの家庭に、テレビを通して死と滅びをもたらす世の中を持ち込むための扉を開くなどとは、とても考えられないことです。テレビを**見ない**最も適切な理由を、幾つか考えることにしましょう。

I. テレビはサタンに支配されています。

クリスチャンがテレビを見るべきでない第一の理由は、テレビがサタンによって支配されているからです。神のみことばは、サタンがこの世の君であり、空中の権を握る君であると、宣言しています。空中の君として、サタンは既にテレビのメディアを支配しています。サタンは、多くの俳優たちとその多くの素材に、自分の配下にする任職の油を注ぎ、空中の電波に乗って、何百万人も家庭に自ら入り込んでいます。殺人、盗み、姦淫、そしてあらゆる種類の悪徳に基づいたテレビ番組の陰謀を通して、テレビは、神の十戒の破り方を教えるインストラクターになっています。この事は、神がテレビ番組の支配者ではないことを証明しています。

確かに、テレビには僅かではありますが、クリスチャンの番組があります。そして私たちは、これらの番組は、サタンに油注がれたものであるとは、断定してはいません。確かにそのとおりです。しかし、これらの番組は、神のみことばと御力に関して言えば、水で薄められたものなのです。ですから、その番組は、神にあって成長したいと願っている、心の飢えたクリスチャンの魂を養うための食べ物はほとんど与えてはくれません。

この世での大きな攻撃の一つは、**白魔術**と呼ばれるものから来ます。オカルト界の人々は、白魔術は、魔術の力を良いことのために用いるものだ、と称しており、テレビは、自分自身を良い魔術師、あるいは白い魔術師だと名乗る人々を受け入れる雰囲気をかもししています。ク

リスチャンは、魔術師は魔術師であることを、覚えておかなければなりません。そういう人が白い服を着ているか、黒い服を着ているかには関係ないのです。魔術は、神の事柄に対する敵です。魔術を導入することは、反キリストが、この世の支配と統治を奪うために来た時に反キリストを助けるための、サタンの計画です。最近のテレビ番組の一部をちょっと見るだけで、私たちの世界が正に今、反キリストの出現のために着々と準備され続けていることがわかるでしょう。リスチャンは、サタンの手中にある道具のほんの少しでも、欲しがってはなりません。

II. サタンがテレビに油を注ぐと、テレビを偶像に変えます。

テレビを見てはいけないもう一つの確かな理由は、神の十戒の第二戒が、偶像あるいは像を拝むことを禁じているからです。その偶像とは、人々の心と意思を真の生ける神からそらせるものです。テレビにはそのほとんどの番組にサタンが油を注いでいるので、テレビは家具の範囲を遥かに超えたものになっています。テレビは、神に関する限り、偶像のカテゴリに墮落しています。神の民の多くは、テレビに釘付けになって座っているのに、自分たちが心の中で偶像の姿にひれ伏していることには、ほとんど気がついていません。

ある主婦たちは、テレビのアイドルにとりこになっているので、自分のお気に入りのメロドラマを見逃そうとは夢にも思いません。そして、そのうちには感情的に全く心を奪われている者もいるので、テレビ・ショーのアイドルに相当する、現実に生きたロミオを探し求めています。

女性たちだけが、心でテレビという偶像にひれ伏しているのではないことを、急いで付け加えることにしましょう。男性たちも、正に同罪を犯しています。彼らの偶像は、彼らを支配して、彼らがお気に入り

の番組を見ているときに、たまたま客が到来すると、友好的にも礼儀正しくもできなくなるほどになってしまっています。男性もまた、家庭にいる自分の伴侶から目と心はさ迷い出て、テレビのショーのスターに似た、そのように振舞う女性を捜し求めています。

テレビのアイドルはまた、若者や子どもの行動と振る舞いを支配します。例えば、迫っている試験のために勉強したり、必要な休息を得るため、そして翌日の責任に準備するために早めに床につく代わりに、若い人たちは夜更かしして、テレビのアイドルを見えています。そして子どもは、自分たちの偶像を拝むことに心を奪われているので、母親の求めることや指示に反応するのが鈍感になります。

子どもがテレビのそばを離れたがらないことによる口論の数は、数え切れません。クリスチャンは、目障りな偶像を取り除くことによって、この種の感情の混乱を避けることができます。

Ⅲ．テレビは家族の生活を破壊します。

神ご自身が、最初の家族の一致を確立されました。神は、人とその妻とその子らが家族としてまとまり、いのちと愛の楽しみを分かち合うことをお望みになりました。家族が霊と自然な交わりで、新鮮に密接な姿で一つになる代わりに、テレビは家族の一致を分裂させ、遂に家族の一人びとりが、もう一人と他人のようになるまでに分裂させてしまっています。富裕な家庭では、その家族の一人びとりに、自分だけのテレビを買い与えることができるようなものがあります。そんな場合、家族は一つの部屋に集まることさえしません。そして、自分の気に入った番組を一人で楽しむ為に、散りじりになっています。愛しあっている家族が一緒に集まって食事を楽しみ、その日の経験を分かち合うどころか、何人もの互いに知らない人が食事の時間中一緒に座り、テレビがかもしだす何か擬似的な感情で心を激しくかき立てられ

ているのです。

結婚によっては離婚法廷でその終末を迎えるものもありますが、その理由は、配偶者の一人が最近のテレビショーを見るのが習慣になったため、その配偶者と家庭を二人で保つのに必要な愛と注意を注ぐのに飽き飽きしてしまったからです。そうです。テレビは家族から一致を奪うのです。クリスチャンとしての私たちの責任は、家族の一致の密接さを破壊することになる、テレビを含むあらゆる敵に戦いをいどむことです。

IV. テレビは、子どもたちの道德面に、破壊的な影響を及ぼします。

神は、両親が子どもたちを、その行くべき道へと訓練すべきことを命じておられます。子どもは感受性の強い心を持っており、自分の親という先生がしている、自分が見たことを、実行します。もしも両親が敬虔な人々で、子どもたちに、神のみことば（聖書）と神の家（教会）を愛し、敬うことを教えるなら、子供たちは、敬虔な原則を心に浸透させて育って行くでしょう。しかし、子どもの訓練には時間がかかるものです。

今日の私たちの国の道德上の問題の多くは、驚くほど多くの両親が自分の子どもを訓練する義務を、テレビというベビーシッターに任せてしまったことにあります。

元をただせば、テレビにたどり着く道德破壊は驚愕すべきものがあります。子どもたちを犯罪や殺人に追い込む責任がテレビにあることは、統計の示す事実です。子供たちは暴力や殺人をテレビで見て、そのテレビで見たことを実行に移します。子どもの未熟な心は、テレビの幻影の世界を現実の生活と区別できないのです。殺人や残虐な行為がますます頻繁になっていますが、それは暴力行為を私たちの国の若

い世代が見ているからです。

テレビはまた、十三歳以下の子どもたちの間でアルコール問題を引き起こしていることにも責任があります。アルコール飲料がテレビで美味しい飲み物として広告され、放映されたのを見た後で、あるいは飲酒が社会で容認されたものである事を見た後で、これらの少年たちは、その知識を行動に移します。彼らは未だ一人前になる前に、強い酒の中毒になっています。彼らのうちには社会のどぶの中に捨てられた者として、その日を過ごすようになる者もいます。

テレビは子どもたちに、性についての悪い心理的なイメージを与えます。牧師として私は、やけになった両親のカウンセリングをしたことがあります。彼らの四歳と五歳の子どもたちが、隣家のテレビで見た性行為のシーンに体が反応したと告白したのです。子どもたちが、強い性的衝動に対抗して心と体が適応できるようになる前に、そのような強い性的感覚を引き起こす何かに子どもたちをさらすことにより、感情の虐待にまで達することになります。その感情がゆがめられた性のイメージと魅力によって縛られた子どもたちが成長した後の人生で、正常な状態からはほど遠い状態になっていることでしょう。

わが国の多数の子どもたちが学習障害に陥っているのも、統計が示す事実です。そのうちテレビが原因だと特定されている子もいます。子どもが座って集中しようとしているとき、問題が生じますが、それは、その子の知能の発達の第一段階でテレビを見過ぎたために、催眠術にかけられているからです。初等教育や高等教育の多くの専門家たちは、この事実に同意するはずです。

ある推定によれば、合衆国の子どもたちは十八歳に達するまでに、テレビの前に平均 22,000 時間縛り付けられている、との事です。テレビの前でのこの時間のすべては、成長の正常な発現を経験することを妨げます。テレビは子どもから自分自身で考え、自分の知力を用いて画像や心像を形作るチャンスを奪います。テレビは、子どもから、

自分自身の娯楽の形式を作り出すことを奪います。なぜなら、子どもが始めて記憶を得てからずっと、プロの芸人によって常に楽しまされ続けてきたからです。ですから、子どもたちの集中力が散漫になってしまうのは、不思議ではありません。学校で、熟練した先生が子どもたちの注意を引き続けられなくなっているのは、当然です。さまざまな報告によれば、先生たちは、この学習障害があまりにも行き渡っているので、自暴自棄になっているとの事です。諸大学では、入試のレベルを下げざるを得なくなってきました。学生を確保するためです。かつては**平均**の知性を持っていると言われた人は、今や、知の巨人のように見えるのです。数え切れない人々の知性は歪められ、麻痺しています。なぜなら、彼らはその働くべき時間の多くの部分をテレビを見て過ごしているからです。

研究者たちは、人が、生活したり、愛したり、選んだりする知能である知能の第1段階が、子どもの人生の最初の三、四年間に発達させられなければ、彼は残りの人生で精神的に奇形になり、不具になって、その完全な潜在能力を発揮できなくなることを発見しています。

場合によっては、テレビは人生の現実からの逃避症候群を助長しています。そのため、テレビは、若い人々が人生の現実から逃避し続けるために、麻薬の助けを借りることを助ける道具になります。

両親が**テレビ受像機**と呼ばれる破壊的なベビーシッターに、自分の子どもたちを人質に取られているのを見るのは悲しいことです。

このテレビというベビーシッターは、子どもたちから重要な学習能力を奪い、同時に、両親が自分の子どもたちに自ら親しく人生の根本概念を教えるという、祝福された特権を奪っているのです。

テレビを通して、人々の学習能力の中枢は、あわれみ、同情、愛と言った善い感情が、催眠術にかけられ、麻痺させられます。犯罪と悲惨事を見続けていると、見る人の心と思いの中に、こういった感情に対する免疫が生じます。ですから、もしも彼らが現実の生活で、誰か

が苦しんでいるか、死に瀕しているのを見たとしても、彼らは全く無感動で、冷やややかに、それを見続けることができます。あわれみや同情、愛のような善い性質が全く欠けた世界に住むことはどんなことなのか、考えるだけでも、恐ろしいことです。こういった、救い出す諸徳がなければ、世界は生き地獄になるでしょう。

高校に通っているティーンエイジャーが殺人を犯した後で、自分たちは決して犠牲者の死が犠牲者の両親や級友たちに、そんな精神的外傷を与えるだろうとは夢にも思わなかった、と言うとき、本当に、テレビが現実と非現実の間を区別する能力を弱め、すべての優しい人間感情を殺した事を知なのです。

V. テレビは肉体を破壊します。

神は私たちに肉体を与えてくださいました。そして神は、私たちがそれを最大限に世話することを期待しておられます。テレビを見続けた結果、目が劣化するのは重大な問題です。

私たちは、かつては活気に溢れた国でした。しかし、テレビのおかげで、座っている傍観者に成り下がってしまいました。適切な体の鍛錬をしないので、体全体が害されています。子どもたちは新鮮な空気の戸外で遊んでいるべき時に、テレビの正面で無為に座り込んでいます。子どもの年長者たちは、体を更に頑健にし、目に輝きを与える生産的で興味深いことを屋外ですべきときに、テレビを見続けて肥満になっています。テレビは、人の全存在のうちのいのちの維持に必要な部分を食い尽くします。ですから、人に対する賢い解決法は、テレビの前で費やす時間について人の考えを再編成することです。

VI. テレビ広告は視聴者に悪影響を及ぼします。

テレビの放映時間の多くの部分は、広告主の商品の広告にさかれています。これは小さなポイントではありません。なぜならテレビは、目と言う門を通して働き、したがって、ヤコブのまだらの枝に類似した力を持っているからです。

テレビの広告は、人の心の顕在意識と潜在意識のレベルで働きかけます。神のみことばは、「殺してはならない。」と命じています。しかし、テレビは人の心の食欲をかき立て、多くの人々を経済的に殺し、金銭面で、言ってみれば、貧民街に縛り付けています。テレビの影響で、多くの人々は、実際には必要とせず、欲しくもなく、買う余裕もないものを買うために、殺到しています。彼らは際限もなくクレジットカードで買い続け、人によっては、遂に破産に追い込まれてしまうのです。

神は、ご自分の子ら(クリスチャン)が自分たちの持っている物の良い管理人になることを望んでおられます。この事は、もしも私たちが強力なテレビ広告に影響されなくなれば、もっと容易になります。

VII. テレビは時間泥棒です。

テレビは時間泥棒です。神は、私たちの目に見える光の日々に対応するように、霊の光の日々を、私たちにご指定になりました。それが**時間**と呼ばれるものです。そして神は、私たちに時間を十分に生かして用いるように、命じておられます。

明らかにされたものはみな、光だからです。それで、こう言われています。「眠っている人よ。目をさませ。死者の中から起き上がれ。そうすれば、キリストが、あなたを照らされる。」
そういうわけですから、賢くない人のようにではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し、機会を十分に

生かして用いなさい。悪い時代だからです。ですから、愚かに
ならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。

(エペソ 5: 14-17)

私たちが時間を十分生かして用いる唯一の方法は、神のみことばに
あって、神の真理の光を－毎日－把握することです。もしも、私た
ちが神のみことばの中にある私たちの光といのちの日々をテレビに奪
わせるなら、私たちは霊的な意味で、永遠に奪われ続けることになるで
しょう。

自然の面で言えば、テレビはまた、私たちが家族と共に過ごすべき
時間を私たちから奪います。子どもたちが若いのは唯一度だけです。
親が子どものためにすることは何であれ、子どもが子どもであるほん
の僅かな年月の間に、為されねばなりません。テレビの前で過ごした
時間は後になっては取り返せないのです。それは私たちから永遠に失
われてしまいます。

VIII. テレビは欺きます。

テレビは、クリスチャンを欺いてテレビを見るように誘い込みます。
それは、彼らに、悪いものを見る必要はなく、良いものだけをみれば
良い、と言うのです。私はこれまで一人もこの点について、立派な霊
の判断力と自制心を維持できた人を知りません。彼らは、最初は良い
ものだけを見るつもりで、テレビを見始めるのですが、間もなく、暴
力と犯罪を見守るように、屈服させられるのです。それによって、若
い人も年寄りも、共に人を攻撃する態度を身につけるのです。

テレビにも良い面があるのでしょうか。あるかもしれません。テレ
ビの発明自身は、すばらしいものです。善に対する可能性は無限です。
しかしテレビがルシファーに支配されている現状では、テレビは死と

破壊に満ちています。

現在のテレビ・システムについての社会学者、生理学者、小児科医、そして教育者たちの書いた総合報告を読むと、それが、はっきりと否定的な報告であることがわかります。ですから私は皆さんに、クリスチャンとして、次のことを覚えていていただきたいと、思うのです。私たちはヨブのように神の前に誓う責任があります。それは、私たちが、私たちの目によって、良いものを見て、悪いものは見ないと言う誓いです。このようにして、私たちは、神が私たちの人生で与えてくださった時間を、悪魔から救い出せるのです。

私たちは、神の聖なるみことば（聖書）によって養われましょう。私たちは霊の成熟へと成長しましょう。私たちは、主イエス・キリストの花嫁という、新しい都に住まわせていただく賞与の目標を目指して、まい進しようではありませんか！

忘れないでください。あなたの心と魂を守ることは、あなたの目を守ることです。毒されるものを見てはなりません！

